

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(2)-ウ	子ども・若者の育成支援	施策	① 子ども・若者の支援に向けた環境づくり	
			施策の小項目名	○支援ネットワークの構築	
主な取組	若年無業者職業基礎訓練事業			実施計画記載頁	100
対応する主な課題	①子ども・若者をめぐる環境が悪化し、ニート、ひきこもり、不登校など子供・若者が抱える問題が深刻化してきていることから、社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者を総合的に支援する体制を整備する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
ニート等の若年無業者で就労支援が必要な者を対象に、職業的自立を図ることを目的に就労に導くための基礎的な職業訓練を実施し、就労のための技術・技能の習得により、無業者状態からの改善を図る。						
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		商工労働部労働政策課		【098-866-2366】		
		若年無業者の職業的自立を図るため、就労に導く基礎的な職業訓練の実施				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	若年無業者職業基礎訓練事業	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	委託	31,614	33,719	34,316	32,489	28,357	31,021	一括交付金(ソフト)	○H29年度: 就労に必要な基礎的な職業訓練を各地で実施し72人が受講した。 ○H30年度: 68人に対して就労に必要な基礎的な職業訓練を実施する。
予算事業名	—								
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
							当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H29年度: — ○H30年度: —

様式1(主な取組)

活動指標名	若年無業者状態からの改善90%				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要			
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B						
	91.8	85.8	90.6	80.7	81.9 (H30.4時点)	90	91.0%	28,357	順調	若年無業者の状態にある15歳以上39歳以下の者へ、就労及び公共職業訓練への移行を促進し、無業者状態からの改善・自立を図るため基礎的な職業訓練コースを9回設置し、72人が受講した。			
活動指標名	—				H29年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	進捗状況の判定根拠と取組の効果
実績値													
活動指標名	—				H29年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	
実績値													
(2)これまでの改善案の反映状況													
平成29年度の取組改善案						反映状況							
<p>①引き続き早期に公募を行い受託先を決定し、訓練生及び訓練回数の確保に努める。</p> <p>②若年無業者状態にある者を就労等に導くため、ビジネスマナー研修やパソコン基礎訓練、簿記講座のほか、農業、食品製造販売、観光、福祉分野等の企業実習などの基礎的な訓練を実施するとともに、引き続き訓練カリキュラムの検討や実習企業の開拓を行うため、関係機関との協議に努める。</p> <p>③サポートステーション等を交えた会議を開催し、若年無業者の状況や事業の成果・改善点等について意見交換し、事業の円滑な実施を図るとともに若年無業者の多様なニーズにあった訓練を今後実施していくための参考とする。</p>						<p>①早期に公募を行い受託先を決定し、訓練コースを設定した。サポートステーションと調整し、訓練生の確保に努めた。</p> <p>②就労に導くための基礎的な訓練として、ビジネスマナーやパソコン・インターネット基礎訓練、簿記講座などの座学や農業、食品製造販売、観光、福祉分野等の企業実習を実施した。</p> <p>③若年無業者の訓練状況や事業の成果・改善点等について、必要に応じて関係機関と調整した。</p>							



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

- ・若年無業者の多様なニーズに対応するため、受託先の開拓や多様な訓練コースを設定していく必要がある。
- ・訓練コースの設定にあたっては、訓練時期や場所、訓練生定員に配慮し、訓練受講機会の確保に配慮する必要がある。
- ・訓練受講者の退校者を出さないように、訓練受講者選定時に就業への意識レベルを見極め選定する。

##### ○外部環境の変化

- ・県内3カ所に設置されている地域若者サポートステーションへ実施したニート等の需要調査で、訓練指示可能人数が75人であったことから、平成29年度予算を75人分で措置した。しかし、平成30年度は一括交付金(ソフト)が減額されたため、68人分で措置した。
- ・今後も確実に訓練生を確保できるよう、サポートステーションと調整を図り、受託先の選定、訓練生の確保、受託先の円滑な訓練実施を図る必要がある。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・若年無業者の多様なニーズに対応するため、受託先の開拓や多様な訓練コースを設定していく必要がある。
- ・訓練コースの設定にあたっては、訓練時期や場所、訓練生定員に配慮し、訓練受講機会の確保に配慮する必要がある。
- ・訓練受講者の退校者を出さないように、訓練受講者選定時に就業への意識レベルを見極め選定する。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・引き続き早期に公募を行い受託先を決定し、訓練生及び訓練回数の確保に努める
- ・若年無業者状態にある者を就労等に導くため、就労に必要な基礎的な座学や企業実習訓練を実施するとともに、引き続き訓練カリキュラムの検討や実習企業の開拓を行うため、関係機関との調整に努める。
- ・訓練修了者の未就職者へのフォローのあり方を関係機関を通じて協議していく。